

2023 年 1 月 20 日

2022 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
課題研究論文

職域における労働者への禁煙支援に関する文献レビュー
Literature Review on Smoking Cessation Support for Workers in the Workplace

学籍番号 : 21MN040

氏名 : 山本菜央佳

要旨

目的 労働者の行動変容ステージの変容、ひいては禁煙や減煙を促進するために職域で行われている禁煙支援の内容を明らかにし、その課題の示唆を得ることを目的とする。

方法 文献は医中誌 web を用いて検索した。検索用語及び検索式は、(禁煙) and (企業 or 産業 or 労働衛生 or 労働者 or 就労 or 職場) とし、原著論文かつ発行年が「職場における喫煙対策のためのガイドライン」が策定された 2003 年から 2022 年 10 月までの間に限定することとした。その後、選定した文献を職域における労働者への禁煙支援の内容について記述されたコードを抽出し、サブカテゴリ、カテゴリに分類した。

結果 分析対象とした文献は 30 件得られ、対象文献の出版年は 2004 年から 2021 年であった。職域の種類は、企業が 22 文献、学校が 4 件、病院が 3 件、某職域施設と記載あるが詳細は不明が 1 件であった。カテゴリは 11 件、サブカテゴリは 30 件抽出された。抽出されたカテゴリは、【客観的指標から現在の自身の身体の状態を把握できる】【規則により職場で自由に喫煙できない】【禁煙に関心がない場合にも支援を受ける】【喫煙が身体に及ぼす悪影響について知識を得る】【禁煙することの価値を感じる】【組織全体の禁煙促進する風潮に後押しされる】【禁煙行動を開始するためのイメージがつく】【支援を受けるときの負担が少なく感じる】【禁煙挑戦中の禁煙継続のモチベーションが向上する】【自己効力感が向上する】【ニコチン依存症に対処できる】であった。

結論 対象者が禁煙することに価値を感じるような支援を行うことで、禁煙の動機付けが高まると考えた。また、ピアサポート効果やホーソン効果を得ること、禁煙による自身の身体的変化を客観的に把握することでモチベーションが向上し、禁煙挑戦中に禁煙継続できる。そして、成功体験を得ることで自己効力感を高め、禁煙挑戦終了後も禁煙継続できると考えられた。職域内の禁煙を促進するためには、禁煙を促進する組織風土の醸成が必要不可欠であると考え。これを実現する要因の 1 つとして、経営者の意識が挙げられるため、産業看護職は経営層に対して喫煙対策の必要性を説明することが役割としてあると考える。また、対象者個人への支援として、対象者が喫煙をする背景を考えながら、対象者に合わせた関わりが必要である。産業看護職は対象者との信頼関係を構築して、対象者が必要とときにいつでも支援できるように、関係を途切れないようにすることが重要であると考え。